

## 静岡県富士市における吉原商店街活性化

谷菜々子（地理学専修）

本研究は、静岡県富士市の中心市街地の 1 つである「吉原地区」を事例に、TMO（タウンマネジメント機関）が中心商店街の活性化に果たしてきた役割を検討するとともに、TMO 以外のアクター（商店街振興組合、NPO 法人、民間まちづくり会社）が商店街活性化にどう関与し、他方で商店経営者によるまちづくり参加やその評価がいかなるものであるのかを明らかにした（図 1）。

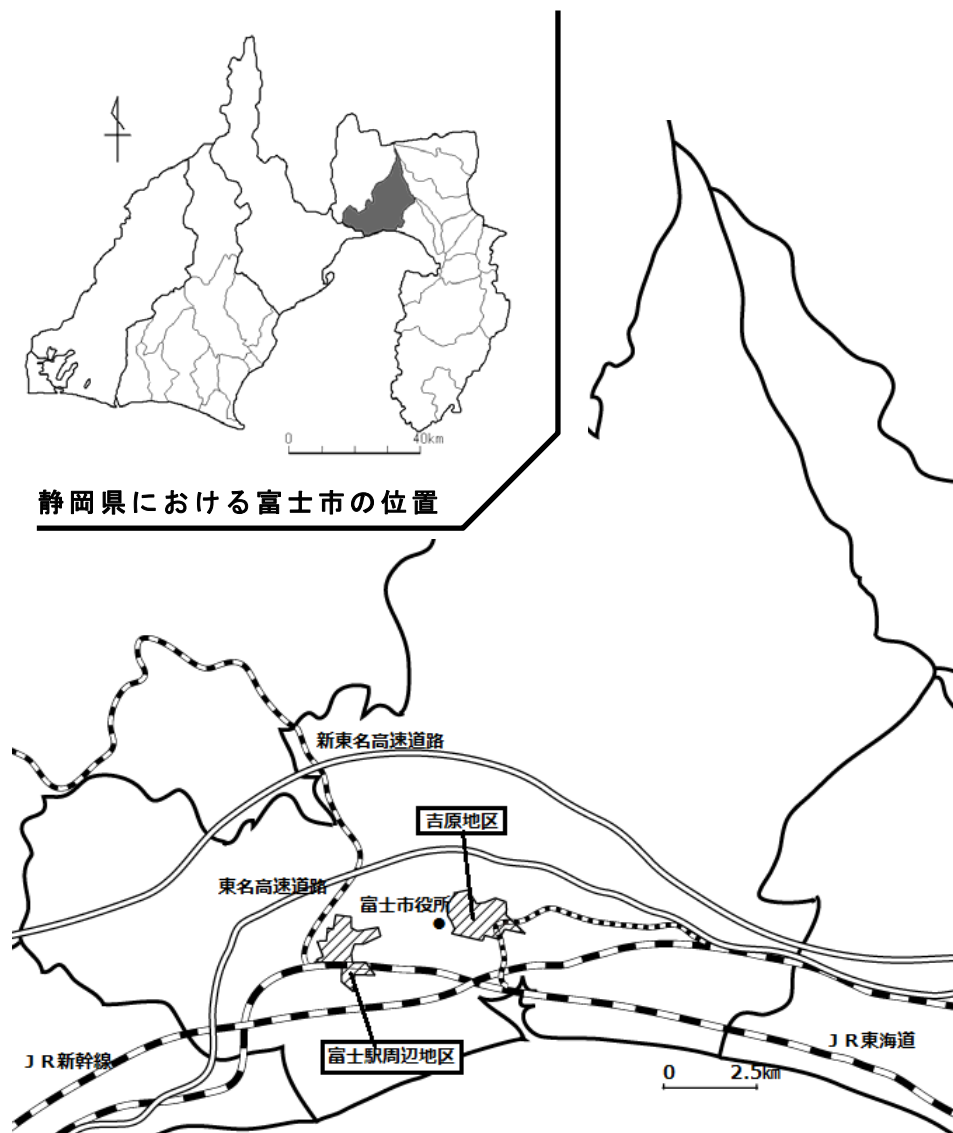


図 1 静岡県富士市の中心市街地の概観

東海道の宿場町（吉原宿）に固有の歴史的起源をもつ吉原商店街も、近年は土地利用・地価分布・歩行者通行量の点からみて衰退傾向が顕著であった（図 2）。そのような商業環境の変化を克服するために、2005 年に富士 TMO が設立され、まちづくりのマネージメント（調整）機能を担うことが期待されていた。しかしながら、TMO が吉原地区全体の構成員に対する意見調整や温度差の解消を図ることには限界があり、近年は TMO の事業規模が少しずつ縮小傾向にあることが聞き取り調査から明らかになった。

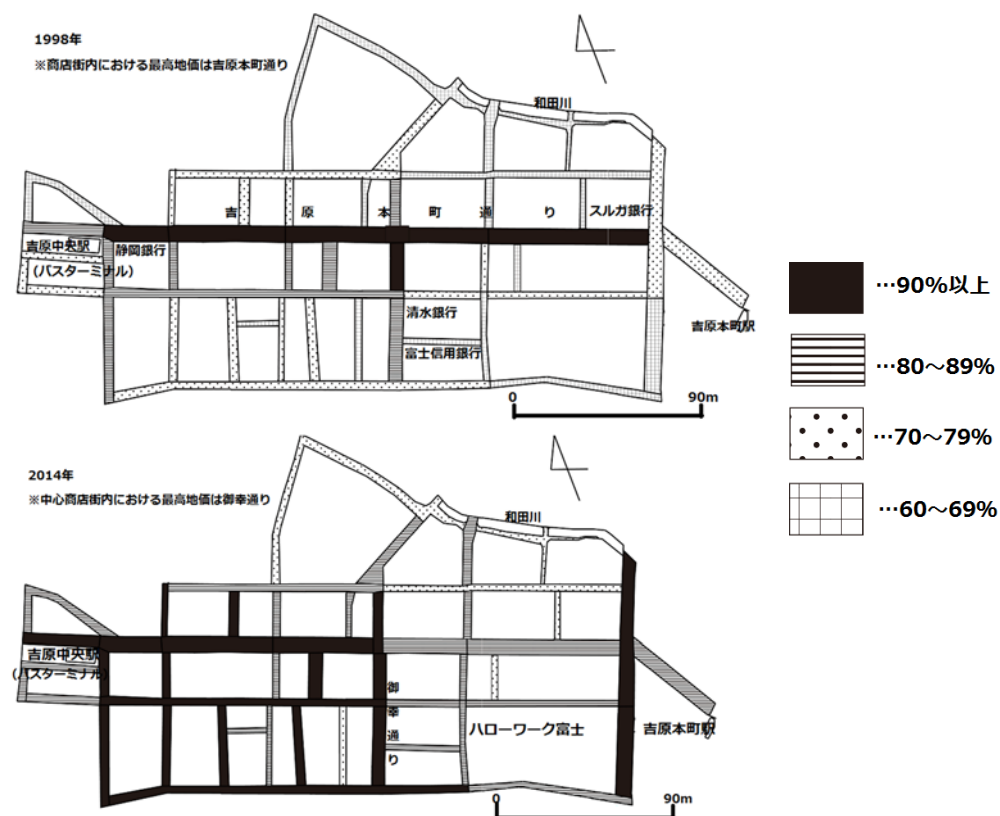


図 2 吉原商店街における地価分布の変化（1998, 2014）

（名古屋国税局『路線価地域設定図（1998, , 2014）』より筆者作成）

こうした背景の一方で、NPO 法人や民間まちづくり会社が自由な発想でまちづくりに関与し、2000 年代後半以降、多彩なイベントの開催やビルのリノベーションに一役買っていることが指摘できた。吉原商店街においては、TMO のような活動領域や組織体制に制限のある従来型まちづくり調整機関の限界と縮小が、かえってそれに縛られない NPO 法人や民間まちづくり会社のような他アクターの台頭を促したかたちとなっており、TMO の補完機能を果たしている現況が示唆

された。

他方で筆者のアンケート調査によると、吉原商店街の商業活動と活性化を担うもうひとつのアクターとしての商店経営者のなかには、一部の TMO 事業（たとえば、富士 TMO の B 級グルメ「つけナポリタン」事業）を商店街活性化の一助と評価する者と、後継者不足に苦しむ厳しい商業環境のなかで商店経営者どうしのつながりが薄れたり、商店街のイメージが悪くなったりすること自体を不安視する者とに分かれてしまっていた（図 3）。すなわち、商店経営者の間ではすでに協調関係のための土台が失われつつあり、官主導の TMO による従来型まちづくり事業の効果は表れにくいことが指摘できた。したがって、今後はこれまでの組織形態にはとらわれない多様なアクターを利用することで、中心市街地活性化を図っていく方法を模索していく時期にきていると結論づけた。

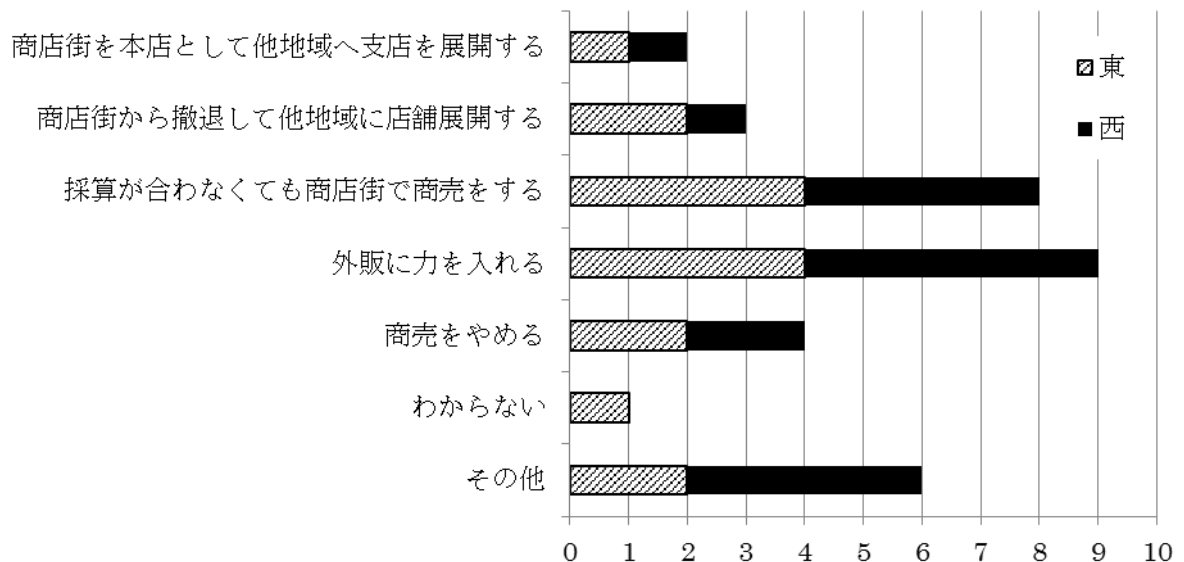


図 3 さらに商店街が衰退した場合の商店経営者の経営方針

（筆者が吉原商店街内の商店経営者に行った対面式アンケート調査より筆者作成）

参考文献：

五十嵐篤 1996. 富山市における中心商店街の構造変化－経営者意識との関連性を含めて－. 人文地理 48－5：46－59.

佐野充・高島淳史 2005. 中心市街地の衰退化傾向にある地方都市の再生－沼津市を事例として－. 地理誌叢 46－1：13－27.

安倉良二 2007. 愛媛県今治市における中心商店街の衰退と仲間型組織による再

生－「今治商店街おかみさん会」の活動を中心に－．経済地理学年報 52－  
2：173－197．

論文の問い合わせ先：

指導教官 阿部亮吾（地域社会システム講座 講師）

[aberyogo@aecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:aberyogo@aecc.aichi-edu.ac.jp)